

学習用タブレットでの不適切キーワードの検知・対応状況について

学校教育課 ICT教育推進係

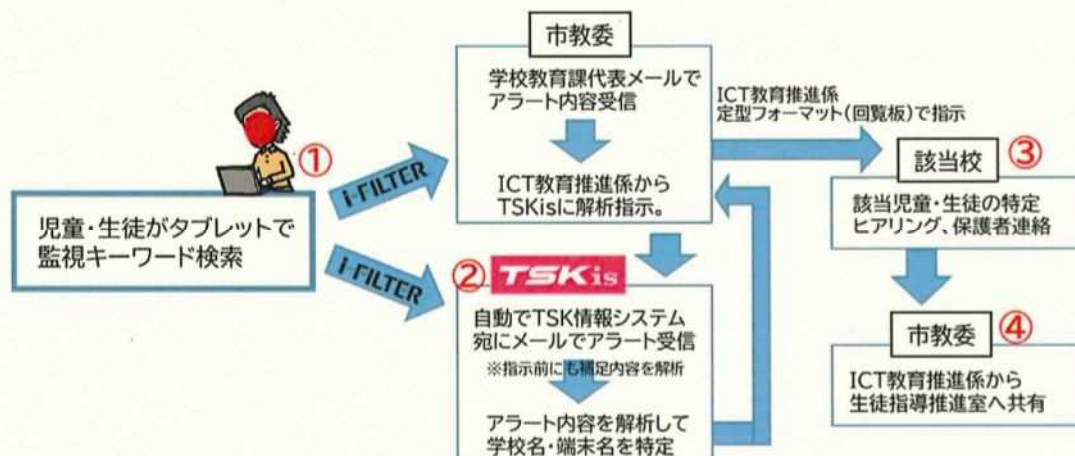
【対応フロー】

学習用タブレット端末には、「見守りフィルター」(危険・不適切キーワード検知機能)が設定されています。不適切キーワード検索のなかで、「自死」「部落差別」に関するキーワードが検索された場合、「見守りフィルター」機能により、学校教育課とTSK情報システムにメールでアラート内容が受信されます。(図①②)

受信後、TSK情報システムがアラート内容を解析して学校名・端末名を特定します。(図②)

特定後は、ICT教育推進係から該当校に報告をし、該当児童・生徒へヒアリングをし、対応しています。(図③)

対応状況については、ICT教育推進係から生徒指導推進室に情報共有しているため、必要に応じて生徒指導推進室がサポートしています。(図④)



【令和5年度対応状況】

令和5年12月6日時点の見守りフィルター機能の対応件数(「自死」関連キーワード検知数)は110件です。

内訳は、小学校42件、中学校50件、義務教育学校12件、女子高6件です。

検索単語の例は、以下のとおりです。

	検索単語
1	自殺の仕方
2	自殺 苦しくない
3	簡単に死ぬ方法
4	簡単 死に方
5	死にたい
6	死にたい時にきく曲
7	いじめ 死にたい
8	消えたい 病んでる